

刑事施設における薬物依存離脱指導

◎対象者の選定

- 面接調査やアセスメントツールを活用し、薬物への依存の程度や再犯リスク等の薬物事犯者の問題性を把握

◎指導の目標

- 薬物依存の認識及び薬物使用に係る自分の問題点の理解
- 断薬への動機付けを高める
- 再使用に至らないための知識及びスキルを習得させる
- 社会内においても継続的に薬物依存からの回復に向けた治療及び援助等を受けることの必要性を認識させる

◎実施方法等

- 1単元60～90分
- 全2～12単元、標準実施期間：1～6か月

◎今後、効果検証の結果を公表予定

受刑者個々の問題性やリスク、刑期の長さ等に応じ、各種プログラムを組み合わせ実施

必修プログラム

DVD教材・ワークブック

専門プログラム

グループワーク（12回）

選択プログラム

グループワーク

民間自助団体によるミーティング

DVD等の補助教材の視聴

面接、個別指導等

◎更生保護官署との連携

- 必修プログラム及び専門プログラムは、保護観察所と同様、認知行動療法の手法を取り入れたプログラムを導入
- 刑事施設における指導実施結果とともに、心身の状況や服薬状況等の医療情報を引き継ぎ、一貫性のある指導・支援を実施

受講開始人員の推移

H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
9,435	10,989	9,728	8,751	7,707	7,493



薬物依存離脱指導

地域社会とともに
開かれた矯正へ

■ 指導の目標

薬物依存の認識及び薬物使用に係る自分の問題を理解させた上で、断薬への動機付けを図り、再使用に至らないための知識及びスキルを習得させるとともに、社会内においても継続的に薬物依存からの回復に向けた治療及び援助等を受けることの必要性を認識させること。

- 対象者 麻薬、覚醒剤その他の薬物に対する依存がある者
- 指導者 刑事施設の職員（法務教官、法務技官、刑務官）、処遇カウンセラー（薬物担当）、民間協力者（民間自助団体等）
- 指導方法 グループワーク、民間自助団体によるミーティング、講義、視聴覚教材、課題学習、討議、個別面接 等
- 実施頻度等 1単元60～90分 全2～12単元 標準実施期間：1～6か月※
※ 薬物への依存の程度、再使用リスク等に応じて、必修プログラムのほか、専門プログラム・選択プログラムを組み合わせ実施。

カリキュラム

項目	指導内容
はじめに	プログラム概要を説明し、受講意欲を高めさせる。
薬物使用の影響	薬物を使用することの利点と欠点について考えさせることで問題意識を持たせる。
引き金に注意	薬物使用につながる「外的引き金」、「内的引き金」を具体化させ、自分の薬物使用の 패턴の流 れについての理解を深めさせる。
再使用の予測と防止①	薬物を使用していた行動・生活パターンに戻ってしま う「リラプス」の兆候に気付き、対処する必要があることを理解させ、自分自身の「リラプス」の兆 候及び対処方法を具体的に考えさせる。
再使用の予測と防止②	回復途中に感じる「退屈さ」が「引き金」になるこ とに気付かせ、スケジュールを立てることの大切さ を理解させる。回復過程においては、ストレスの自 覚と適切な対処が大切であることを理解させ、具 体的な対処方法を考えさせるとともに実行を促す。
活用できる社会資源	社会内で断薬を継続するための支援を行う専門機関 についての情報を提供するとともに、民間自助団体 の活動を紹介し、その内容について理解させる。
おわりに	「再使用防止計画書」を作成させ、自分にとっての リラプスの兆候や引き金となる事象、それらへの対 処方法について具体的にまとめさせる。
選択	項目及び指導内容については、専門プログラムから項目 を選択し、各項目の指導内容に準じた内容とする。

項目	指導内容
オリエンテーション	プログラムの概要を説明し、目的とルールについて理解させる。薬物を使用することの利点と欠点について考えさせることで問題意識を持たせ、受講意欲を高めさせる。依存症とは何かを理解させる。
薬物使用の流れ	薬物依存がどのように形成されるのかを理解させ、入所前の自分の状態を振り返らせる。「引き金」とは何かを理解させ、薬物使用に至る流れに関する知識を身に付けさせる。
外的引き金	薬物使用につながる「外的引き金」を具体化させ、自分の薬物使用の patternの流 れについての理解を深めさせる。
内的引き金	自分の薬物使用につながる「内的引き金」を具体化させ、自分の薬物使用の patternや流 れについての理解を深めさせる。
回復段階	薬物依存からの回復の段階における特徴的な心身の状況を理解させ、回復に対する見通しを持たせる。
リラプスの予測と防止	「リラプス」とは、薬物を使用していた行動・生活パターンに戻ってしま うことであり、再使用防止のためには「リラプス」の兆候に気付き、対処する必要があることを理解させ、自分自身の「リラプス」の兆 候及び対処方法を具体的に考えさせる。
いかりの網	再使用には前兆があることを気付かせ、再使用に至らないための方法を具体的に考えさせる。所内生活において、それらの対処方法を実践するよう促す。
退屈	回復途中に感じる「退屈さ」が「引き金」になることに気付かせ、ス ケジュールを立てることの大切さを理解させる。
社会内のサポートー自助グループとは	社会内で断薬を継続するための支援を行っている専門機関についての 情報を提供するとともに、民間自助団体の活動を紹介し、その内容に ついて理解させる。
仕事と回復	仕事が回復にどのような影響を及ぼすかを理解させ、両者のバランス を取ることの大切さを認識させる。
再使用防止計画書	「再使用防止計画書」の発表を通じて、これまで学習してきた内容を 確認しながら、自分にとってのリラプスの兆候や引き金となる事象、 それらへの対処方法について具体的にまとめさせる。また、他の受講 者からのフィードバックや発表を聞くことで、それまでの自分にな かった新たな気付きを得る機会を提供する。
まとめ	回復過程に必要なことは、意志の強さではなく、賢い対処であることを 理解させるとともに、これまでのセッションで学んできた効果的な 対処方法が身に付いてきているかを受講者本人に確認させる。

ダルク・NAとの連携



※ ダルク（DARC）：覚醒剤等の薬物から解放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設。

※ NA（ナルコティクス・アノニマス）：薬物依存症からの回復を目指す人たちのための自助グループ。